

# 中大ヒューマン・ ネットワークのなかで



学長  
**角田 邦重**

中央大学を旅立つ皆さんに心からお祝いを申し上げます。卒業おめでとう。

皆さんが中央大学での学生生活を通して、これからの職業生活生き抜く力を身につけたに違いありません。を期待し、また信じたいと思います。もちろん、皆さんが学んだ知識それ自体がすぐに役立つほど現代の社会は単純ではありません。中央大学も、既に二年前にアカウンティング・スクールを開校し、この四月からはよいよロスクールが、そして来年四月には行政大学院、その次には文理融合型の電子社会システム研究科

の開設といった大学院の充実・強化に向けて取り組んでいます。これは社会の高度化・複雑化に伴って、

専門的職業人養成の場が学部だけでは足りず大学院の場へシフトしていることを表しています。わが国の企業は、これまで入社後の社員研修やOJT (on the job training) というられる職務経験をとおして能力を高める人材育成のやり方をとつてきました。産業界を取り巻く急激な変化に対応するために、経験を超えた専門知識や社外経験を重視する傾向が強まっています。実際、中央大学のアカウンティング・スクールで

学ぶ学生は殆ど社会人で占められています。ロー・スクールにも予想以上に沢山の社会人の応募者があったのに改めて驚いています。皆さんも、その必要性を感じたら、もう一度、中央大学の専門的職業人を念頭においた大学院の門を叩いて下さることを期待しています。

しかし実務的専門教育といっても、学部教育のしっかりした専門的基礎教育の上に行われるのでなければうまくいくはずがありません。「大学で学んだことをおろそかにしてはいけない」、当たり前のことのようにみえますが、皆さんは、嫌というほどそのことを痛感させられるはずです。そして胸を張って、なるほどこれが「実学の中大」の伝統なのかと気づいて欲しいと期待しています。言いたいことは、もうひとつ。どんな職業分野に進むにせよ、皆さんが出会うことになる仕事は、特定の専門分野の知識で間に合うようなものではなく、他の分野にまたが

る知識やそれを吸収する好奇心と能力、さらには異なる分野の人の協力やそれを可能にする組織力といった人間的な総合力が要求されるはずです。それを可能にするのは、もちろん皆さんの努力ですが、同時に、大学時代につくった友人、様々な分野、全国各地で活躍している学員と呼んでいる中央大学OBの広くて厚いヒューマン・ネットワークの重要性に気づいて欲しいのです。考えてみると大学は、全国から集まってきた学生が少なくとも四年間の生活をともにする生活空間であり、また二〇年近い長い伝統に支えられて沢山の優れた人材を輩出してきた時間軸のなかにあります。皆さんは、このヒューマン・ネットワークのなかから、多くの出会いと貴重な示唆を学ぶことが出来るはずです。

みなさんが卒業後も中央大学ヒューマン・ネットワークの一員にとどまってくださることを期待しております。

ご卒業おめでとうございます



総長  
ほかま 外間 寛 ひろし

ご卒業おめでとうございます。  
今ここに社会人として第一歩を

踏み出す新たな期待や喜びとともに、長い学園生活に別れを告げるに当たって、様々な思い出が駆け巡っていることと思います。

皆さんが本学で学ばれた4年間は、国内外ともに、まさに激動の時代でありました。

昨今、世界情勢は劇的な大変革が相次ぎ、国内においては日本経済が構造改革および財政再建など、今なお景気回復の兆しが見えないまま深刻な社会状況が続いています。皆さんはこうして厳しく先行きの不透明

な社会情勢の中に社会人として踏み出すこととなります。

皆さんのそれぞれの卒業後の進路先において、皆さんが持っている最大の特権である「若さ溢れる豊かな知性と感性」を遺憾なく発揮して活躍されることと思いますが、私からは次の3つのことを要望したいと思っています。

ひとつは、「自ら仕事の能力を高めるよう絶えず努力すること」

仕事はさまざまな知識を要求します。大学で修得した知識は、専門的な分野での基礎的なものが多いと思います。既修未修にかかわらず積極

的に何事にも挑戦して、自分の仕事に精通するよう心がけてほしいと思います。

2つ目は、「協調の精神をもつこと」

いまは、どこでも仕事組織化されています。多くの人びとの協調によって仕事が進みます。そこでは、上司・同僚の間で信頼関係を築くことが必要とされます。

最後に「ものごとを正しく判断する力を身につけるように努めること」

これからは責任ある立場に立ちます。判断に迷うことがらについて判断をしなければならぬこと、また、倫理・道義の問題に関わりをもつことも少なくありません。責任のある

立場に立つての判断・決定は、当然、周囲に大きな影響を与えます。自分の判断についての責任を自覚するためにも、「正しい」とはどういうことか日ごろから考えを深める訓練を積むことが大切なことだと思います。

以上3つの要望を卒業生へのメッセージとしたいと思います。皆さんの一人ひとりがどのような職場にあっても、たんに仕事がよくできるというのでなく個人として信頼され、尊敬される人間になってほしいということがあります。

最後に中央大学が皆さんを誇りにもっていること、皆さん一人ひとりが中央大学であることを忘れないで下さい。そしていつでも、この母校を訪ねて、教師との旧交を温め、後輩との交流を深めていただきたいと思います。

皆さんのご健康とご多幸を心より祈念いたします。



## 何を「生きがい」に



法学部長

 かない  
**金井**  
 たかし  
**貴嗣**

卒業生の皆さん、卒業おめでとう  
 ございます。

皆さん、卒業を機に、自分の人生  
 を振り返ってみるとともに、これか  
 らの自分の人生を考えてみませんか。  
 これまで、楽しいこともあれば、つ  
 らい思いをしたこともあったことと  
 思います。大学に入ってみると、中  
 学・高校とちがって、自由な時間が  
 たくさんあることに、とまどいなが  
 らも、自分をみつめる時間ができ、  
 これから何がしたいか、何ができるか  
 を考えるようになって。しかし、いざ、  
 考えてみると、世の中がどうなっ  
 ているのか、今、日本の社会が変わり  
 つつあることに気がついて。自分が  
 いかにか世の中のことについて知らな  
 かったかを自覚しながら、それでも、  
 いつまでも親の脛をかじるわけにい

かないから、生活の糧となる仕事に  
 つかなければと。でも、何でもいい  
 わけではなく、「生きがい」を感じ  
 られる仕事を、と思い悩んだに違い  
 ありません。

これから社会に出て、仕事をして  
 みると、給料を得るといふことは「た  
 いへんなことだ」と実感すること  
 でしょう。世の中、いい人もいれば、  
 いやなやつもいます。これから、い  
 くつも壁にぶち当たります。それら  
 の壁を突き破ることができるとどう  
 か、皆さんの、社会を洞察する力  
 と、何を大切に生きてゆきたいかの  
 「こだわり」だと思えます。これら  
 の洞察力と「こだわり」は、皆さん  
 が、大学を卒業してから、生涯、行  
 う「学」「問」によって養われます。

## 君に 幸せあれ！



経済学部長

 こぐち  
**小口**  
 よしあき  
**好昭**

皆さん、卒業おめでとう。ご父母  
 の皆様にも、心からお祝い申し上げ  
 ます。皆さんが中央大学そして経済  
 学部で過ごした学生生活が、実り多  
 く有意義であったことを願っています。  
 経済学部は、冷静な思考力と温か  
 い心を持った良識ある市民を育むこ  
 とをモットーの一つにしています。

われわれが日常生活の中で「冷静に  
 考え、そして温かい心を持つて事に  
 当たる」ことは、簡単そうでなかなか  
 難しいものです。ついカッとなっ  
 て事件を引き起こすなど、これと逆  
 のことは日常茶飯事に起こっていま  
 す。

皆さんはこれから社会人として、  
 いずれは親として、これまで以上に  
 様々な新しい経験をし、悩んだり苦  
 しんだり、大いに喜んだり、しみじ  
 みと幸せをかみしめたりと、起伏に  
 富む人生を送るはず。そしてこ

れまで以上に多くの人と出会い、数  
 え切れないほどの決断をしなければ  
 ならないでしょう。そんな時、この  
 経済学部のモットーを思い出して  
 ください。きつと、いい判断、いい決  
 断ができ、よい結果が生まれるはず  
 です。

新しい時代を切り開くのは、君た  
 ち若い世代の知性と感性です。これ  
 から大いに自分を鍛え感性を磨い  
 て「冷静な思考力と温かい心」をさ  
 らに育み、元気で生き生きと活躍し  
 てくれることを、心から願っていま  
 す。経済学部は来年、学部創設10  
 0周年を迎えます。次の新世紀にさ  
 らに飛躍するために、教職員一丸と  
 なってがんばります。皆さんも、思  
 う存分力を発揮し、良識ある市民と  
 して大いに活躍してください。

最後に、長瀬 剛とともに、  
 乾杯！ 君に 幸せあれ！！

# 卒業の日に

## 卒業生の「これから」に期待する



商学部長

さかいしろう さぶろう  
**酒井正三郎**

理化・リストラ」の猛威が吹き荒れて中高年者の受難が言われ、「フリーター」なる耳慣れない言葉もいつの間にかすっかり定着しました。

しかしよく言われるように、困難な時こそチャンスの時でもあります。学生時代に身につけた知識・教養を生かし、自分の信じる道を果敢に突き進んで行ってほしいと思います。

商学部は、皆さんの学窓からの出発となるこの日を特別の感慨をもって迎えました。というのは、今日の卒業生の多くは二〇〇〇年度の入学であり、皆さんは商学部で九〇年の歴史を有した二部（夜間部）を廃止して昼夜開講制に移行したその年の新入生、つまり新生商学部の第一期生であるからです。プログラム科目の導入などカリキュラムも、商学部の伝統である深い教養に裏付けられた実学教育の追究、という理念にそって大幅に改められました。この学部改革の功罪は、今後の皆さんの社会での活躍如何によって定まってくると言ってもいいでしょう。

この四年間は従来にも増して激動の連続でした。「九・一一同時多発テロ」という前代未聞の事件が起き、それをきっかけにアフガンやイラクで戦争が始まりました。国内では「失われた十年」のデフレにより、「合

由がない。学んだものは、実地に応用して初めて趣味が出るものだからな」（岩波文庫版、三二六ページ）。

皆さんの前途の洋々たることを心より祈念して、卒業のお祝いの言葉といたします。

## つねに考えながら…



理工学部長

かざま しげお  
**風間 重雄**

学生時代から数えると人生のほとんどをこの理工学部で過ごされた一人の先生がこのたび定年ご退職されるのを記念して、研究室のOBと学科の共催による歓送会が開かれました。多くの卒業生が各地からかけつけ、またすでにご退職されていたかつての同僚の先生方も参集されたよい記念の会でした。その席上、かつて同僚だったある先生がスピーチのなかで次のようにいわれました。「おまえたちは、学生時代、授業中に居眠りはするは、私語はするは、他人のレポートをうつして平気な顔をして出したりして、なんだ、あのざまは！」と。しかし、青春時代にはこのようなことがあってもよいのかも知れませんが、皆さんの多くの先輩たちが社会の中堅として活躍しておられるのを見ると、これから皆さんが担うことになる次の時代には『希望』があると、私は信じていることができます。

いまは、「先行き不安の時代」とか、「見通しの悪い時代」とか、あるいはまた、「五年先のことなどまったくわからない時代」などといわれています。しかし、「見通しがよい（といわれた）時代」や「五年先のことわかっている（と人々が勘違いしていた）時代」の方がはるかに悪い時代であったというのが、私たちが人類の歴史から学ぶことです。人間にとって『死に至る病』とは、絶望のことです。私は、皆さんの存在そのものが『希望』である以上、この社会が死に至ることは決してないと思っています。これからの人生において、悩みなながらも考え、絶えず間なく打ち寄せる苦しみを越えて喜びに至る道をつねに探しとめて、歩んで下さい。『考える』ための素地はすでに作られています。そのことに自信をもって巣立って行って下さい。

## 三十三年目の再会



文学部長  
まつお まさひと  
松尾 正人

御卒業おめでとうございます。社会に船出する皆さんは大いなる期待、そして不透明な時代の先行きに一抹の不安を胸にしているのかもしれない。そのような時代であっても、皆さんが中央大学で獲得した財産は、将来のどんな困難にも打ち勝つ貴重な力となるはずで。

わたしは昨年十月、大学時代のクラスの友人と三十三年ぶりに再会する機会がありました。彼は郷里の八戸市の新聞社に就職し、卒業してから会う機会がないままに過していました。思いがけないことから、八戸へ出張する機会が重なり、思いきつて電話をかけたのが三十三年ぶりでした。

電話口の彼は、一瞬、驚いて言葉に窮していたようですが、それでもすぐに私がかかったようでした。翌日、待合わせ場所に現れた彼は、昔の面

影と随分違っていました。それでも、話し出したら三十三年前に戻っています。肩を左右にゆるする癖、低い声でボソボソと話す口調、いずれも昔のままです。彼との話しから、別のクラス仲間の近況もわかりました。八戸から仕事で上京した折りなど、連絡をとりあっていたようです。時間はあっという間に過ぎ、何時の日のかの再会を約して別れました。

それから半年、八戸での再会を思い出すたびに、なんとなく心が暖かくなる思いがします。駿河台にあった中央大学の旧校舎とともに学び、喫茶店で語りあった日々が、昨日のように蘇ってきます。気持ちだけでなく、身体までが少し若くなったように思えるから不思議です。

中央大学で学んだ日々は、皆さんの貴重な財産で、長い人生の折々に役立つはずで。勇氣と自信を持って飛び立って下さい。活躍を祈念しております。

## 賢者の心得



総合政策学部長  
おおはし まさかず  
大橋 正和

「賢者は歴史に学び、愚者は体験に従う」という有名な言葉がある。

体験は、「百聞は一見に如かず」ということわざのように重要な行為である。最近では、インターシップなど様々な体験学習が行われている。大学から世の中に旅立つ卒業生諸君は、社会の中でこれから様々な体験をする。しかし、この言葉の意味は、賢者は、自分の体験や考えばかりで物事を理解するのではなくその原因や背景や世の中の変容などを考えて自分の経験や体験を普遍化することにより共通の原理や法則を見つけ出す事だと言うことです。ここでいう歴史は、日本史、世界史など様々な体系をさすのではなく世の中の出来事を普遍化した代表としての学問を指している。実際には、歴史を見る眼も年代順ではなく大学では課題別や地域別、問題別など様々な見方をすることを学ぶ。経済学や法学も同じで

学問体系の中で専門部分を深く学ぶことになる。学問の体系は、何々学と言われる学問も実際には様々な分化している。このような研究の方法は、全体を部分に小分けにしてさらに部分を深く研究し元に戻すことによって全体がわかるというような方法でありこれを還元主義という。近代科学の基本的な考え方の一つである。還元主義が成り立つのはおのの要素が独立で関係が線形の場合であるがわかりやすい考え方のため世の中の仕組みの基本は還元主義的考え方で成り立っている。二〇世紀になつてから還元主義では解決のしようのない問題が起つてきた。特に、二〇世紀の後半になつてからその傾向は顕著になつた。卒業生諸君はこのような変容が激しい世の中に出て活動をしなければならぬ。高校までの体系づけられた教育の基礎の上に大学での自律的に学び学習する能力を元にしてこの変容の社会を理解し自分の体験をふまえて新しい社会を築く気構えで活躍されることを切望する。